



雪の出羽路

七

雪出羽道

平鹿郡

七



新田町直

平鹿郡

平鹿ノ郡 七卷

○ひとつ藤下境邑寄郷十箇村

○杜のりた水 田村 ○野中のり 根田盆

○おちのりたの 八柏 ○もりのりた 櫻森

○杉のりた水 塚堀 ○おちのりたの 赤河

○いちめがき 七日市 ○野中のりた 下八丁

○おちのりた 清水町 ○おちのりた 猪ノ岡

昭和貳年六月廿日

○ひとろ藤下境村 里長 文七

○上境邑上境と横手を以て本郷とし下境は田

村根田谷八柏七市○塚堰櫻木林清水所○下

八下赤川猪岡おど村々十箇村の親郷之田村本母

郷ありしかるありて享和八年辛未のとしより此下境村は首郷

と成りしきかとい坂合の義も境堺をど書き堺の田を

正字として此下境の村の東に上境西百万新

川の百曲ありてありて記し南塚堰八下北西根

云銘を唱へ八卦村家々二軒櫻所同二軒新田村同六軒

○新處同七軒馬場同五軒板杭同三軒長沼同二軒

日向同三軒三栗同土軒大島同一軒中所同六軒大

屋敷同三軒太田小屋同五軒小次郎小屋同軒目那川

同軒 裨卷同三軒 根田同十三軒 堰合同六軒 押し切らる
見ゆ今、享保日記郡邑記よりと変化カハリて新衣カシイマことあるや多し

上三栗

いふ一帯オホ一毛イカ三子ミツ並て成る栗刺ありし由来の石ありと
いふ三割ミタリとて一帯ミタリあり三子ミツある梨栗ありて雄勝、郡子三割栗村あり
りも、秋田郡阿仁にも三割栗あり今と其梨子村ミツサシて水無村と
いふ三河国は六栗村あり、一栗二栗三栗は姓ウケナも聞えたり
最上義光の郎等と一栗兵部少輔とと百貫の武士ありし
事、永享軍記に見えたり、も、三栗は萬葉集にもあり
三栗の中とつけり詞抄小苑ミツサシにさたさの中ミツサシに、三栗は
これ枝の末と三子ミツより、おあれば直サキに三枝ミツサシともなり又三
あり、中あれば、さつたり三栗の中、これ栗の実

の三つとも、さつたりと見え、あらば、三栗ミツサシ愛水
の、親子三人の義ヨシとて婚姻トキの式シキか、今、是ココを用ツカふ、あ
り古き式シキあり、ゆゑ三子ミツの、栗クリ形カタ此三栗ミツサシともなり、
長物語ナガモノリさつたりよしある村あり、神明宮田面の杉スギ、
下座モタり、祭日四月十六日ミヅウマキ、境正寺

下三栗

其三栗、木あり、此邑のつづ子生いたり、
まゆる人あり、此村に三光院とて修験ありしが疫エヤミ病ヤミを
り、いふ、いふ、やうにみえたり、て元文の頃より其後、
て今、三光院や、いふ、いふ、残り、上下の三栗に隣、
いふ、いふ、

堰合

堰會といづもく多し井堰の中より存るを以て
村をせり高保くこちをち戸ありしかる七戸あり

○田神、社祭日十二日

○日向

いたた村三栗村より東に存る古三軒今ハ四軒あり

○馬場

○あり八卦の某人の店鋪をやそよ家士あまた有りて此
あり馬場をせりし処といふ家古五軒今ハ三戸あり

○浄土庵有り横手の光明寺の下庵に

○板杭

板杭といふものなりや久しき板小倉とふ郡
邑記に家より二軒と見えあり此を鎌田全と記す

さみりどありしその民家今ハ伝へる所未だ中村
存る鎌田文七の家をみり此構板は渋谷玄廻とて
くすりの家の二戸あり渋谷の上祖ハ仙北郡神宮寺
村ありて板垣氏より其系譜を持ち此板杭を承て他苗を
胤とす此家の庭より一畧とて花はくもぬきもあはる
其實穀の内より一畧とて承るをみり一畧とて
いふなり

大杉の社大山祇神と斎す此山神社ハ渋谷氏の
斎主たり

○櫻町

○郡邑記に家二軒と見えたり今ハ渋谷門とふ家一戸あ
り此処とあり横手河流を其山岸より大寺橋一本その河の

淵^{マキ}に臨^ガみぬ此^{マキ}橋^{マキ}のありは水^{ウツマキ}湫^{マキ}巻^{マキ}て流^{マキ}れを^{マキ}る^{マキ}橋^{マキ}
 洄^{マキ}流^{マキ}の^{マキ}あり^{マキ}を^{マキ}認^{マキ}て^{マキ}乃^{マキ}は^{マキ}櫻^{マキ}所^{マキ}村^{マキ}とい^{マキ}て^{マキ}
 一の^{マキ}橋^{マキ}の^{マキ}実^{マキ}態^{マキ}を^{マキ}う^{マキ}る^{マキ}を^{マキ}む^{マキ}う^{マキ}を^{マキ}捨^{マキ}ぬ^{マキ}其^{マキ}心^{マキ}が^{マキ}む^{マキ}を^{マキ}
 う^{マキ}る^{マキ}

新田

此村横手川の近き所郡邑記に家七軒あり云々
貴船明神春祭三月十七日秋祭八月十七日村中巡り斎主
を三太郎といふ此村の神の事を村の俗に傳ふ
やうに恐るる語をせざるなり此市神ハ伊弉諾尊
軻遇突智為三段其一為高皇詠高皇詠者詠神也
貴布祢明神是也山城國愛宕郡二十一座り式
神神々々此村の者旱魃ころい雨を祈るなり

○
八
卦

八卦に假字をてきつけおとつても轉語をともく
 多々あるなり古鍛の跡あり此より馬場村の處あり
 今之前のもこのいふ如く鍛^{ゴト}堀^{クナ}堀とよありおの帶刀堀^{リテハキ}
 今人の名もやとつて人あり郡邑記に家名二軒今
 大戸あり

太郎小屋

太郎小屋次郎小屋六郎小屋殿小屋助太郎小
屋おとこや某^{ナニ}小屋某^{ナニ}小屋とてむかし四十八^{しやうはち}小屋ありといふ

大屋敷

○そのむろいも大なる家ありしよし古ハ三軒今ハ二
戸あり

○目那川

○郡邑記に目那川邑家々二軒々も二戸あり河邊郡
に目名形あり山本即目長田あり云々目名川
ルあり

○稗卷

○稗卷ハ稗時よりあるハ水田あり島に稗種し処
あるやきやちひんまきいも多きあり古に三戸
今に四戸あり照井彦左衛門といふ旧家あり

○根田川

○大戸川の端あり古に十三戸今に十二戸あり一向宗門の寺あり

○萬榮寺

○特留山万榮寺と云ふ仙北郡安本村より一宮宛延の

頃安本の万榮寺西本山より改派して浅草村の玄福寺の律
應次男大俊宝暦二年入院して寺務相續せしむる東
西両本山とあけていふ事ありてそよりあやうき寺と云ふ西
派東派両寺と云ふ安永六酉年平鹿郡に移り十
石の米をとりつゝ此下境村の東派より二世すめりと
いふ

○照井氏由来

○此根田のト本ト上根田川と云ふに照井五右衛門とい
ふ旧家照井太長竹久の後胤あり古に録に三膳原氏本
名若押影之中将二宮之孫夫妻成給其妹井中、淳康身
影給事照日也見是而自尔以来照井申也竹名兼字
幕紋一具瓶子也兩時文治二年己酉八月下旬押影中

いふより話を傳ふ

○田中

田中といふ多き村あり此邑の北より北よりあり家
一戸あり

○庚塚

庚申塚あり庚塚といふ家七戸ありけし七
軒といふ家あり此村ありとの南の方より

○大島

此村大戸川の岸よりありあり島といふ大島の北あ
る家あり一軒今一戸あり

○中村

福島、観音社南此觀世音あり福島といふ家あり

せし中村よりある祭日三月十七日斎主錦田文七

○福島 ○長沼 ○小沼 小沼ありのみ家なし

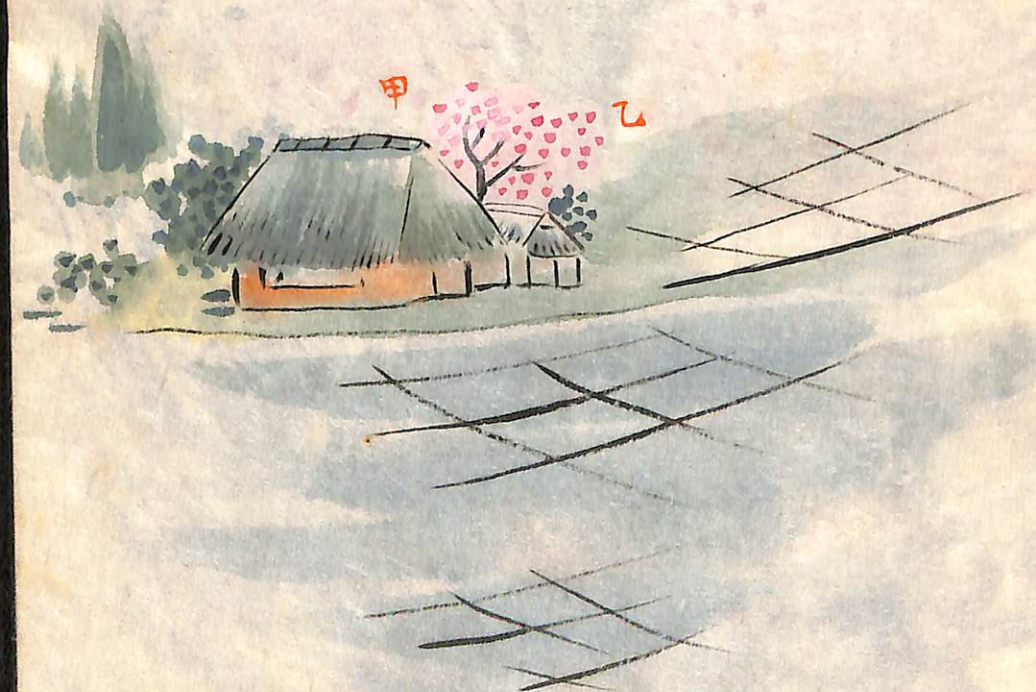
○押切 東北仙北郡西根村古鍋子淵古堰堀切あり境
北同処川向古河道限境西に右同村に觀音堂下畑
横丸内見通境民家七軒と郡邑記に見えたりと
今と家あり

○津土庵

此庵と上根田川村あり特留山萬宗寺内に在り
橋手の光明寺の末庵ありといふ古庵ありといふ

○家員七十八戸 ○人数四百三十一人 ○馬員七十疋

櫻町村
 甲 此一ヶ家といふ所の
 さくらりの藤木をうゑて
 櫻町の名をもらふ
 たる



むろー横手川此を東より西に流れて大櫓の生る下ハ溪
 まんばさくろり淵といひやう水がうづまうまうてさくろり巻
 とろいーが淵も田を代りさくろり巻も櫻所
 とありしとありしと云



杜のり木田村

里長

奥惣兵衛
 主事 助

東は根田谷長百方川黒川下境あたは村々あり西
 阿氣櫻林は南は八柏あり北は角間川新角間川門目
 あたり村々あり多奈良を初め田村といふ里あり
 此野田岡を田村野田村岡といふ相通へるありて
 栗はたむらじ字をよみ日本紀に部字をよみ又隊字
 黨字をなむらじといふ義同じ其手くまあり
 意よて日本紀に十数群とてあるあり
 岡ハ奥列栗原郡に存坂上田村麻呂蝦夷を征せし時此
 地すといふ其後源頼義の清原武則に會せし所也と見えたり
 田村郡是記云う家久八十二軒當是之田孫助先祖六代先
 奥惣兵衛門最上より浪人參りて長二十年忠進開

突^スと見え浅舞^{シノマユ}二里三十三所四十歩角間川^{ツノマタガハ}（吉里十五丁^{チヨウ}）
 と見えたり此村薪^{シロ}乏^ハしと云ふ根子^{ネツコ}といふもの掬^スりて朝夕^{アサヨ}是^{コノ}を焚^{ヤク}
 く云ふふ田村根子^{タムラネ}といふ之秋田郡^{アキタノ}根子^ネといふ村也根子^{ネツコ}根^ネ
 櫓^コの湯桶^{ユヅリ}讀^{ヨミ}まや三千風^{サンギヤブムカエフ}が行脚^{アキヤブムカエフ}文集^{アキヤブムカエフ}子寒^{サムイ}かん登^{ノボ}いねつこ
 りといてア^アしあ^アも^アも^ア句^アは三千風^{サンギヤブムカエフ}和^ワ句^アといふら
 お肩^{カミ}も^ア霜^{シロ}零^コる^アと見えたり根子^ネは保^ホ多^タといふ物^{モノ}
 おお^アと^アや^アいな^アや^ア倭訓栞^{ヤマトノミコト}材木^{サイキ}の^アを^ア櫓^コと^アり^ア
 歳^{サイ}華^カ紀^キ歴^{レキ}子^シ歳^{サイ}除^{ジュ}夜^ヤ焼^{ヤク}櫓^コ融^{ユウ}といふとお^アと^ア山^{サン}里^リ
 といふ^アら^アり^アと^アく^アべ^ア木^キを^アり^アハ^ア火^ヒ立^{タチ}の^ア義^ギを^アく^ア歌^カといふ山^{サン}が^アつ^アら
 多^タ起^キす^アき^アみ^アと^アは^アた^アの^ア火^ヒと^アあり^ア屋^ヤ張^{ヤウ}出^{シュ}雲^{ウン}と^アき^アり^アか^ア伊^イ
 勢^{セイ}子^シ根^ネこ^アと^ア安^{アン}房^{フウ}子^シ祐^{ユウ}つ^ア総^{ソウ}河^カ子^シ木^キ下^カ武^ブ藏^{サウ}と^ア孫^{ソノ}つ^ア又^{マタ}根^ネ
 木^キといふ^アあり^ア沈^{シヅム}り^ア日^ヒた^アは^アと^アい^アふ^アと^アい^ア新^{シン}撰^{セン}字^ジ鏡^{キョウ}燼^{セン}

又唐煨おどより火立の杭の義をいふ。○ほつりといふ口
誅ルはつり出たるもはなりといふ。○八瀬大原の
里は同姓婚姻して他邦より来りて其をいふ。○其をいふ
と○親の親の子の子をいふ。○山賊はつりみのかけたぬをい
ふ。○つりみは○異邦の朱陳村と同じ。其始の乱をいふ。
○つりみは○亦似たり。阿波の祖は○安徳天皇の陵あり
に○熊野の山中に小杉家あり。周防国に畜生谷といふ所あり
大和の吉野の奥に前鬼後鬼あり。是れ同じ。常陸国
真壁郡に叔父姪夫婦といふものあり。是れを逆縁といふ。
○つりみといふと見えたり。つりみおひぬ長物語あり。筆
のつりみといふものあり。○田村の根子。○雄鷹の浦の賀賀。○
津輕の猿毛。○越後の谷地。○三河屋張の山石木。○

石炭じきりんのたぐいあり、南部の海邊にて石炭をいすみい
るがみなどいす伊賀のうらふおどろく宇述と方言之當
を石炭述下品を綿うふといふ香ふ匂へうふく同く梅
の花はなおどろく芭蕉の句あり、此田村根子を定享のこ
ろあつむり最上福山の羽長坊、炭竈遠し土焚く夕け
やうと作らう句あり、此根子を切ふ一番掘と石雲丹如
其をも黒し焚火たいて灰とあふふそのをもいと中し二番掘と綿う
ふのとく品下しヨカラなりその土のをも希しあふを焚火たいに灰れうる
をもうとて劣り三番掘いふおもぬ此一番掘の灰をあた
し師フシよりけてそのぬいふ灰を飯の炊湯も其灰はいし
て練りかゝめそ日は乾くとも其灰を焼くたい白き事雪
の下しあゝ羅合よりけて是貢土産とるゝと田村灰

とてあたまふかたあり、中へて人にお是をめつれとい
番をおありといふ名掘、今して二番と掘る処多
し此根子をおありむり、他邦の人、錢せんを出して
掘りて行へといふ正徳四年のころあふ別村べつ村の人、お根子
掘り取らまふといふし、余オホ今をかりやうて其事止やまとあ
るゝ○柴田監物平居高といふ人、義光の家士なり
しがあふりて最上よりすゑ新郷イナタリへ其熟功あふの
らに柴田氏の事、あふ奥より、委曲つひくあるといふ○柴田
高此一邑を支配い村民をなぐ恵み耕の道をねるあ
ろふ教ふ其うらふやもろ十三箇村の親師とあれ
り○元和二辰もとにより傳うた野やといふあふのやう○天和
室、水のころあふハ毎月四九日田村市とて賑い馬市

ル河つるしといふ 村の東に凡二百間より十間斗あり大
榊林の四ふまあり山本郡榊山の外に六郡の内は
まゝ見ゆゑとて榊木、余之此榊林と柴田所高といふ
くの水田心のまに 成就て泥土をうゑしおのれ本國
最上より榊木の種子を採るをそよ時きとまゝり、
とてゑりばまのいとおのれ大榊木と成れ其榊
木のぬゝ十万余ありとてなほ子息をなすゑそ
つてとていふいふやとてぬ其後徳雲院義我處公中街
道とて十文字街道とてなるを して榊渡野あり
とて此榊木君の御目よりきとていふとていふ 珍し
榊木林のまに誰がくゑとて榊木とて作る人々ありこ
まゝてとていふとていふをけいしすれば功あり水はや軍用の

のそなへに相ちとていふなほ年毎よりゑつとていふの作
事あれば柴田所高の末胤とて監物所親よりこまゝてとて
守る六代目、茂是時制札を給ふ 田村之内榊木野林
に立置之間下草とていふ所取をとりとて者也正徳三年五
月日洪江宇右衛門正御札 横一尺八寸位 裏書 石井市兵
衛御代官所田村とありみお上 祝のいさをとて今も七十三
斛四斗、米を知行事とていふとていふ

柴田氏家系譜

初代茂高與三左衛門改監物羽羽最上、産之慶長八
年平鹿郡田村一村、開闢也幸芳免百石餘頂戴、一男
二女、生、寛永十九年七十三、終、法名月窓淨輪庵
主、葬田村西法寺、二代茂久左吉改監物茂高子也

慶安四年終年四十四男二女生。三代茂親左吉改
監物茂久子也。延宝二年終年三十九三女生。四代茂
行近江茂久子茂親弟也。茂行子無。五代茂伴甚
三郎改與三右衛門栗田氏子妻茂親女之茂伴。宝永六
年死一女一男生。六代茂昆一學子改與三右衛門茂伴
子之正徳五年終年不知。七代茂隆孫助改監物茂昆
子之宝暦元年終年二男三女生。八代茂清傳太茂隆
子之安永六年死年三十一子生。九代茂秋鶴松政與
三右衛門茂隆子茂清弟之明和四年死子無。十代茂
周儀助改監物茂清子之寛政十三年辛酉終年四
十八男三女生。十一代茂道茂周子号監物今
年文政八乙酉年四十六母六十八共健之三男

三女六子生。嫡三平茂正今年十歳健之

舊器

家藏の横刀ナガ長二尺三寸五分小乱焼本阿弥十
郎左衛門ノ下札。備後鞆、貞家ノ記大々なり。中子無名
次ニ此一刀ハ上祖茂高最上ノ所持ノ宝代タカラなり
形カタも白玉あり。坂上田村將軍ノ御衣束の佩玉ウツタマを
しも毘沙門天王ノ神像ミコの内子ウツコ龍リウ給タマハり玉ありといふ

毗沙門堂略記

柴田氏高姓平稱監物其先最上人父茂金其父
兵部大輔茂正者則義光卿大夫也最上君滅亡而後茂
高慶長癸卯三年到於本邦卜居平鹿郡田村常
聞古方群雄起刈國擾乱民苦兵革而人煙絶盡

為荆棘荻藿之野蓋茂高辟^{シラキ}中葉治水墾田園方
 七里四方流民傳占新作^{シラキ}洛數百戶地力完而衣食足
 以田村將軍舊地故名田村且為十三邑官府事聞
 公嘉其躬秉耒耜開曠野^{シラキ}世賜食祿百石先是中
 野視若干遣礎大有四尺五尺忽有一氣冲天者六七日
 暗得銀朱然精玉形如胡盧子二顆於土中矣或曰是
 往古坂上田將軍奉
 詔伐不伏王化東夷報捷
 安嘗撫生民歲餘而建廟乃安置所仰信毘沙門天神形
 而納^下所帶形如胡盧子玉於腹中矣將軍薨後數
 百歲夷賊復事金華不奉祭祀屋覆而無加修理楹朽
 棟倒終亡唯礎磐確^{トシ}乎存仍舊茂高繼田將軍志
 建毘沙門堂每歲四月三日奏神樂以禱一鄉安寧也

甲^{ネッゴ}根子篋真玉を鉄^{ネッゴ}してり、避て柱の如く此篋ふもて切り

秋田^{アキタ}音頭^{ネッゴ}の詞^{ネッゴ}其方父^{アキタ}田村の根子掘りたりと云ふ見れ真里^{マツリ}だ

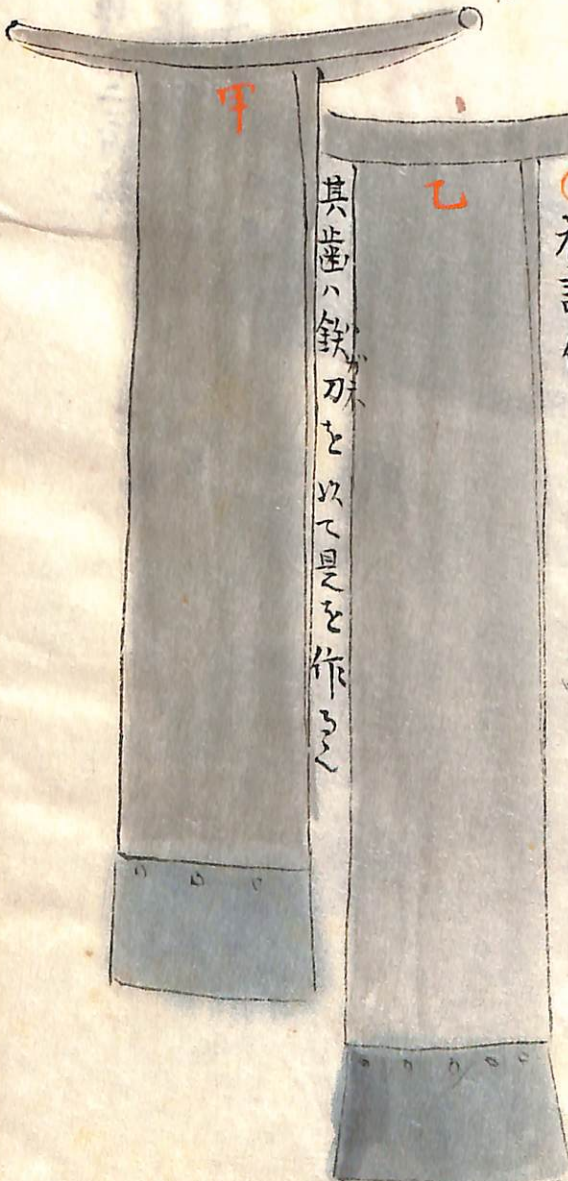
雄^{オス}鹿^カ夷^エの名^ナあり、
 秋田^{アキタ}と云ふ此賀^カ賀^カと云ふ起すを賀^カ賀^カと云ふ、
 此あたりの作^サり、
 蒲^カの葉^ハあて作^サ制^セくみお賀^カ賀^カと云ふ、
 丁^チ藏^{サウ}弱^{ジャク}を賀^カ賀^カと云ふ、
 丁^チ藏^{サウ}弱^{ジャク}の濁音^{ダク}よこて



〇^{ネッゴ}祢^ネ許^コ信^シ良^リ惣^{ソウ}長^{チヤウ}一^{イチ}尺^{シツ}、
 七八寸幅四寸五六分

其^{コノ}葉^ハハ鉄^{テツ}刀^カを以て是^{コノ}を^{コノ}作^サる

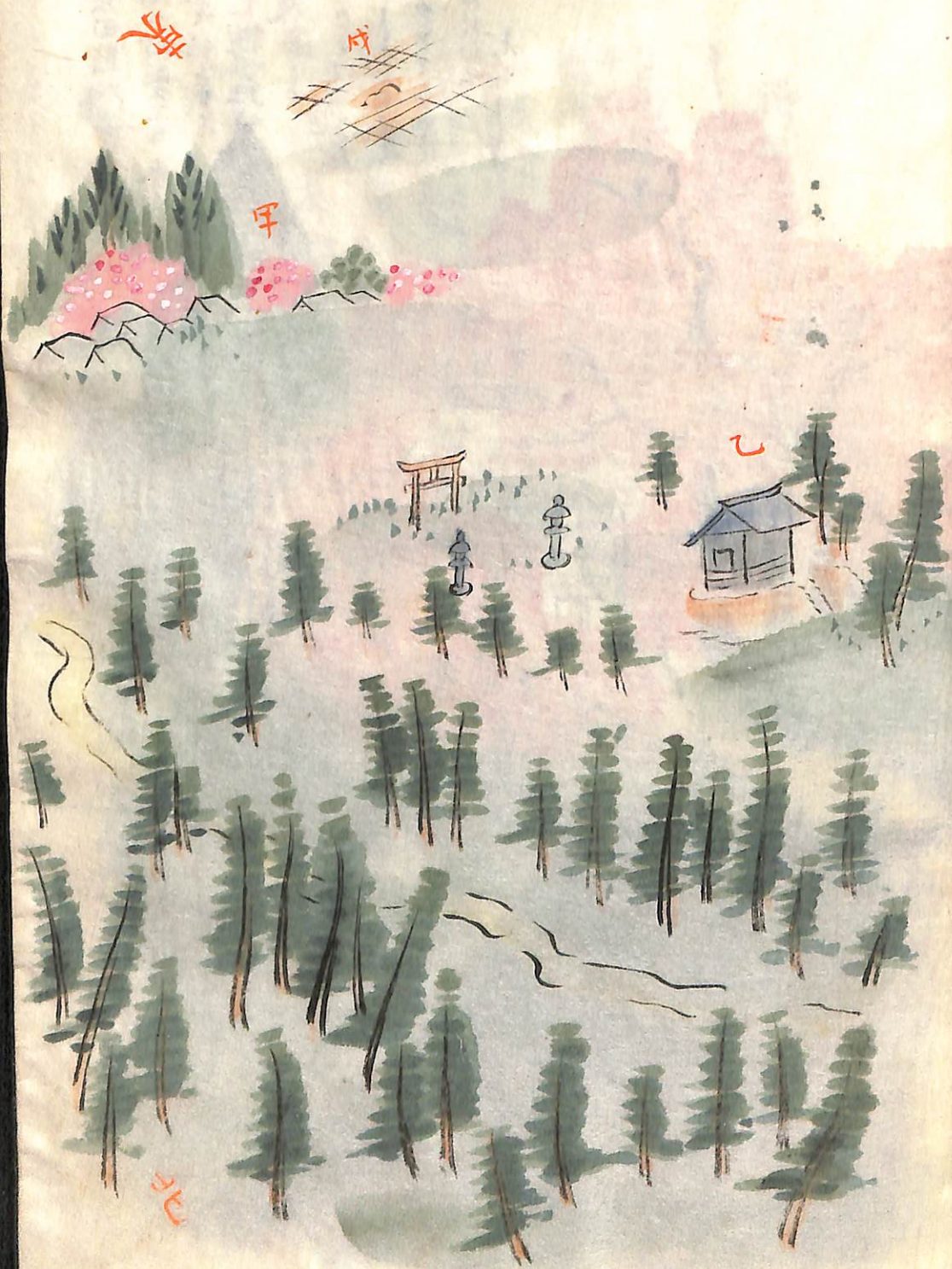
倭名抄^{ニッポナシヨウ}服玩具部^{フクワンク部}ナ
 晋書^{シンショ}云^ク蒲葵^{ホキ}弱^{ジャク}人^ニナ
 按^キ蒲葵^{ホキ}者^ハ或^ハ木^キ別^{ベツ}名^ナ
 也^{ナリ}今^{イマ}称^{イフ}蒲葵^{ホキ}者^ハ以^テ蒲^ホ作^ス
 之^ヲと^ス思^フ病^{ヤミ}の^ノ弱^{ジャク}漢^{カン}
 おとし田^タ邑^イの^ノ蚊^モ打^チみふ
 蒲^ホ弱^{ジャク}の^ノ名^ナいふこと



甲 此沙門天ノ社といふ所の礎
 乙 大いゝて今も残る
 丙 観音堂
 丁 神明宮
 戊 此沙門
 己 別當多門院



甲 耳取村のこゑより 乙 佐一郎明
 神として稲荷の社あり 丙 傾城
 塚とて二層、八尺斗、高き水腫
 樹生るその由よりさるる知る
 人あり 丁 古塚あり 某の壘
 とふ事を知らぬ狐穴といふ
 多し また 戊 將軍屋敷とて
 耳取村の西の方の田の中三
 間四方斗、小高、土をつつぬ
 たり 己 あり 田村將軍
 の陣営の跡とていふに
 己 田村あり 柏木林遠く見たり



甲田村、柴田監物、茂道
 上祖、茂高の神靈齋奉
 りて櫻を過て社を造り
 花を建てて櫻ノ社
 とて西宮夜亭と
 山別荘のりとはらま在
 りてとて三月十九
 日祭りておととしさく
 らの社の名はいち
 ろちり



○多門院歴代

將軍山多門院代々毘沙門天王、別當職をり上祖
 寺傳りし一卷の日記失せて委曲を記録する所なく
 安三度年との何れと僧号遷化の年月を悉く修驗
 者代々多門坊多門院と号する○二世多門坊快圓寛文
 辛亥八月
 二十日遷化○三世多門坊宥永貞享三年丙寅
 二月十八日遷化○四世多門坊泉
 重享保元二年辛丑
 七月二十日化○五世多門院宥全延享二年乙
 卯五月二日化○六世多門
 院快廣安永四年乙
 卯三月二日化○七世教全院秀仙安永五年丙
 寅四月十八日化○八世多
 門院宥隆天明四年甲辰
 四月十八日化○九世長山坊宥山元僧存生○
 十世當住多門院宥壽

○多門院重寶器

毗沙門堂棟札奉造立三間四面御堂一宇惣戒師本

昆沙門天本願主柴田監物同苗佐吉○慶安三年菊
 月二十六日○綱葉板觀音惠心僧都作柴田監物茂
 高寄院寄附○紫銅大日如來一軀○鐫口年号
 不知

アバギ
 ○阿婆木ノ觀音像

○多門院 家藏

此正觀世音ハ惠心僧都渙人の家ニ宿りて泛子^{アバ}調^{ウキ}の泛^{ウキ}ホ^{ウキ}綱羽木^{ウキ}の
 朽た^{ウキ}と^{ウキ}もて^{ウキ}志^{ウキ}り此菩薩の尊形を作りて其^{ウキ}あ^{ウキ}の^{ウキ}郎^{ウキ}治^{ウキ}く^{ウキ}し^{ウキ}
 中^{ウキ}と^{ウキ}い^{ウキ}て^{ウキ}施主監物金助松五郎喜三郎六之丞此五入四月十八日^{ウキ}
 奈^{ウキ}り^{ウキ}と^{ウキ}い^{ウキ}く

木ハ朽^{ウキ}も^{ウキ}て^{ウキ}其^{ウキ}尺^{ウキ}々^{ウキ}
 甲^{ウキ}乙^{ウキ}間^{ウキ}此^{ウキ}五^{ウキ}分^{ウキ}

川綱海綱
 小^{ウキ}より^{ウキ}大^{ウキ}
 其^{ウキ}制^{ウキ}亦^{ウキ}ホ^{ウキ}
 乙^{ウキ}間^{ウキ}此^{ウキ}五^{ウキ}分^{ウキ}



○紫銅大日如來大サ如圖

○多門院家藏



○福島

○此村古門^{イミシ}、目川の山戸^{コホレ}を存して、水のあま山^{コホレ}朋^{コホレ}く
ふ名をいふ、山^{コホレ}朋^{コホレ}村といふ、不祥^{フカハシ}々々、ぬきぬき、福島と
改め呼ぶと、さういふ、事、保日記に、家々七軒、今大戸あり、近きま
ま、いふ、大^{クナキ}、樸^{クナキ}、木^{クナキ}、あり、いふ、伐り、さへ、ち、いふ、語、いふ、

○新町

○此邑新町と改りつれど、並て、田村と、いふ、是、本、所、く
○多門^{ミチカ}、天^{ミチカ}、社^{ミチカ}、あり、さう、陸^{ミチカ}、奥^{ミチカ}、國^{ミチカ}、達^{ミチカ}、谷^{ミチカ}、の、昆^{ミチカ}、沙^{ミチカ}、門^{ミチカ}、天^{ミチカ}、の、如^{ミチカ}、坂^{ミチカ}
上田村^{ミチカ}、麻^{ミチカ}、呂^{ミチカ}、の、建^{ミチカ}、立^{ミチカ}、いふ、いふ、場^{ミチカ}、いふ、いふ、其^{ミチカ}、つ、いふ、いふ、七^{ミチカ}、間^{ミチカ}、四^{ミチカ}、面^{ミチカ}、社^{ミチカ}
いふ、いふ、其^{ミチカ}、礎^{ミチカ}、の、いふ、いふ、ち、いふ、いふ、残^{ミチカ}、さう、いふ、いふ、見^{ミチカ}、て、いふ、いふ、つ、いふ、いふ、偶^{ミチカ}、ふ
いふ、いふ、社^{ミチカ}、柴^{ミチカ}、田^{ミチカ}、監^{ミチカ}、物^{ミチカ}、民^{ミチカ}、の、建^{ミチカ}、立^{ミチカ}、之、祭^{ミチカ}、日^{ミチカ}、四^{ミチカ}、月^{ミチカ}、三^{ミチカ}、日^{ミチカ}、本^{ミチカ}、社^{ミチカ}、向^{ミチカ}、社^{ミチカ}、内^{ミチカ}、祖^{ミチカ}、母^{ミチカ}、祖^{ミチカ}
父^{ミチカ}、村^{ミチカ}、の、大^{ミチカ}、樹^{ミチカ}、いふ、いふ、いふ、いふ、塙^{ミチカ}、家^{ミチカ}、櫻^{ミチカ}、いふ、いふ、別^{ミチカ}、當^{ミチカ}、修^{ミチカ}、験^{ミチカ}、多^{ミチカ}、門^{ミチカ}、院^{ミチカ}、く

○未社神明宮 七月二十一日祭礼

○同觀世音 四月十八日祭礼

○監物屋敷 五十間四方 墨外堀 押方より大なる懸刀木まゝあり

此皂角樹高四丈餘ありつは木より周囲一丈六尺三寸あり

り梨子木あり其近き別業ありその屋戸の柱を雪隠亭

といふ事いふ近きものなりちの杉をうゑて青葉垣

とし中より垣の内を楊をいりうゑる祠あり其上祖樂田

監物平内あり神をまつる倉ありて花ををもて楊

社といふを聞てよみて手馴れし菅江真澄よりみよの

そのつやつねに末を歩みて字を楊の印ありやう

いよき旁々谷二本あり花をよおもしうしこを柏林あり

根こしきる花をうといふ

佛刹あり臨水庵より本尊觀世音と安置なりおとよ

水に臨ておとよきより角間川迄の津連すの末庵ありて

津土宗門あり○此新町の南に往復の條に南へ行ふ傾

城塚四ツ屋上田村を過て八柏村より北へ行ふ福島

を過き布晒門目を經て角間川より新町の西迄あり

所小松屋を喜助とて假の里長をといふる屋戸あり

○弥兵衛明神 ともをに稻荷社あり斎主ありぬち 八重屋

祭日七月十九日

○下 佐賀理 ともあり

此下ふ村ありいらる村ありや堰の東より下根田あり

あり下根田よりいりて郡邑記に正保四年より始り

久四軒と見ゆる大戸あり東より西へ新町南へ根田谷

おゝせむ両親のとしゝカエ老衰増し給ふ事と云ふと
まぢげり父田の事を向給へりお苗様うゑ渡りさふら
ひゝの見せむおとつね丸木屋ゝゝ堀子板橋を掛け父
を肩て田の面よりさふら田中様まふふゝ見せむ
とて肩よりさふらの橋を降りまた嵐屋さばりこちり
穂鈴花にせがらひおとつねとてそのとねゝ父を背より
いて此橋をさふら孝行橋の名におとつねとてその孝子
りつゝカエ仁人ありカエ此けうの事をいふとさふら
天樹院公の御代より五合一人御扶持を賜りけるその孝子
此年文政八年乙酉春より八十を健りその世の假里長三
郎右田門藏之助の西人ゝ此耳鳥の戸田氏と田村端芳
との家よりさふら戸田興惣と向迎保長より前の記した

る藏之助と云ふりけるその世の假里長三郎
宝曆七年己酉の生れて六十七歳を存命と

○四ッ屋

○東に根田谷に西に狐塚南に上田村北に傾城塚四ッ屋
大江戸を始り堀とさふら多きなり其保日記に四ッ屋
四十軒あり三十セドク

○上田村

○此村の東に上根田谷地西に関南に八柏村北に四ッ屋村あり
享保日記に家々三十セドクあり

○和風庵より浄土宗門の佛刹ありおとつねの木像を
安置し此寺の庵と横手の桃雲寺の末派とあり

○下高口

○東ハ下吉田西ハ薄井南ハ上高口北ハ櫻木林之此下高口マ
た一本杉邑ともいふ

○大日如來堂祭日四月八日別當薄井村修驗者寶
壽院之此大日如來堂の北ハ古川の旧跡あり今ハ田ノ成リ御膳川
跡より岸ハ木ノ杉なり一船繫し杉とふさから一本杉の名

○中野

○此中野村郡邑記あり天明のあり一ノ木ノ家四軒あり
一ノ家一戸より東ハ下根田谷地西ハ折橋南ハ上ノ村
北ハ新ケ

○木林岡

○享保日記ノ家ハ十二軒今ハ村潰れし手代森と云
い地ノ手代ハ綱亭索の具なりそれハ似たり佐

渡の島より紡錘手代山なり此木林岡の足斯呂木林と云
勢ノ産と云

○木林明神東西二十間斗南北百間斗山石の森之此森地動
やがしといふ此稻荷社斎主木林岡五子岡今新ケ

○金蓋

○敗邑郡邑記ノ家ハ六軒正保四年開祭地之と云元
東ハ塚堀西ハ上田村南ハ八柏北ハ下根田谷地寛政の娘マ
家ニ戸あり和議をせし大戸川の邊にあり一ノ家ありて
金蓋五子岡と云塚堀一村里長つとあるはとある
其五子岡ノ家ハ末胤根田谷地村に在り此五子岡ノ家
より小蛇一尾捕り来て飯の鐘をたてて養生の飼ふ
月より日ノ地ををていふ大子なりぬたの

二尺すの蛇すしふぐりそのふん七八尺と大きき太きふ
 家の人つねに見るれてふんふのふんふと見驚るなりし
 此ふらとふらてハ男とふ見何ふみられバす登る五
 身その夜ふいふふ此大蛇をいふふて大戸川
 入て汝ハ今ヨリ此ふや 柵家とせふといふてふたふとおと
 世蛇ハ銚ハやおふ大なる歌ふたげふふとふた
 て後その津大樹とふれに誰かふふふ五身その樹
 とふふいける五身その樹のふ行て何ふ雨ふふふ
 洪水す登る大戸川の端ふふ汝此水ふふはふり
 とやふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 大木の梁の如き背のふふふふふふふふふふふふ
 やらふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 蛇の背のふふふふふふふふふふふふふふふふ

りける水を安げふふふふふふふふふふふふ
 その蛇ハいづふふ行なりふ見しとふ人なり此流れ
 過る毎巻ふふふ大蛇存と今語る五身その樹が
 養ひ大蛇ふふふ大蛇すむ地ハかふふふふふふ
 りとふふふふふふ此田村に近所ふふふふふふ水ふふ
 ちふふふ人のふ根ふを掘ふ一番二番三番ふふふ
 何れハ真土の出ふふその真土のふふ津水ふふふ
 といふそのふふ大木ふふ大地震ふふ大津浪ふふ
 木を倒し伏して其木の葉土といふふ塊ふふふ
 木の葉木の枝も新ふふふふ木ふふの交りたる
 事ハ何百ふふふふふふふふふふふふ大ふふ
 ぬふりハ高岡の如き根子掘り掘りて穴ふ見ふ

河をるを馬曳ありく見えさふりし人
の語りぬ此田村の外に根子掘り焚く村に根田谷地の
こまり其根田谷地ありし田村の内よりけり別
村とせり

○田村邑惣家数百二十七戸

○人口七百四十九人

○馬数五十六疋

田村産物

○田村灰上品中品下品皆上品を初とて中品を
初霜と近れしち好事のものを附しといふ

○田村木綿其薄き事紙のど一六尋一反を木綿七
十疋と三日は織りぬせよふ南京木綿とよふ早造木

綿めをた白の類よりて落しをてそのなり

○忍冬酒

田村お七穂

○田村社田村麻呂ノ神靈を奉りて近江國土山
に在り亦讚岐國香川郡に田村社ありは猿田彦御
神とまつるふや久保田寺内に田村大明神社あり
田村將軍まつる社あり上野國勢カ田村に田村
といふ処あり田村といふ多しなりみちのくも田村
あり古今著聞集二十卷奥虫蛇合内獣條にみちのく
は田村の郷の人馬先をかりしものやふその鷹をか
いさむる鳥を得ずしてむしりて歸りけりありぬと
いふふもし鳥一つは居たりけりといふなり

射なりとれば何やまた心をとりしやうとてそのをし
をやがてそまよつたりかゝて餅^コらうをばあやうりし人
の家よりぬ其次の夜の夢にいとまよめうたる女の
ちいさやうさうの来てさあ〜とちいあ〜何や〜
て何人のかくはき〜と問れば何れも赤沼よとせ
る何や〜も侍るあやう〜ごうの男もあら〜給つ
りさ〜いゝた〜ん〜て〜ま〜あ〜う〜れ〜中〜おるい
〜て〜己が身もち〜づ〜侍るも〜さ〜と〜一首は
歌をとち〜てな〜〜と〜と〜

日くあればきそり〜ものをあやめよの真菰が〜あ
いと〜わ〜う〜た

何れより〜おれ〜中〜あり〜後〜を見

りれば餅仕屋のおの雄鳥^{メトリ}のものをあやめよの真菰^{マコ}とて貴

てたあまう〜をを見て馬元やがて〜を切て出

家〜と〜あま〜の刑部を輔仲能^{サカヨシ}朝臣^{アサノミ}の領り

ちいさ〜と〜ん〜た〜か〜あやう〜信濃^{シノノ}国〜あ〜そ〜

何れもあまう〜か〜あま〜を〜ひ〜と〜あ〜

赤沼と陸奥国膳原^{トノハラ}や〜其外のり〜あ〜此出羽

見赤沼と〜〜た〜〜古〜た〜と〜あ〜田村

とお〜あ〜び〜赤沼あ〜あ〜出羽のり〜みちの〜の方^{カタ}

誤^{カキ}〜〜みちの〜の〜を〜ら〜は〜の〜と書た〜あ〜

書ぶと多〜れ〜強^{シク}言^{ゴト}〜筆^{ヒツ}の〜〜と〜を〜説^シす

り〜れ〜その〜此田村のり〜こ〜あ〜の赤沼の何れ

の地〜桑^{クサ}揚^{アサギ}の南田村のり〜具^グ理^リと傳訓葉

くく 和名抄に梅をよめ射鳥矢のなまりと見えたり水
鳥をよめ用轉の字の意成るやし俗よりと廻す
をといふくを濁りていふ同じく見えたり考ふ真
留理と蝦夷人の鳥を射る具理といふありまじく自
とよめありいづる木を削りて制作る鉄めて飛鳥
居鳥をよめ射るまじく自名斯と翔鳥を射るまじく用
流理と水鳥居鳥を射るまじく其鳥は瘰のけさるやうに
射捕る鉄削の根ありそのたふいふさうあるのふりぐり
おち 語を

○根子の京物語

○根子野をいふく大なる野にまじく初秋のけさるや
く一郷の人うちあれおのるくおて鎖おけるを振

りぬ上ハいさく土沙ありかくて黒根子出次ハ赤根子
ありて品やあれり二三尺ハ振れハ尽のりていと白四
五十をハ振りて振るまじく村に流てあまの京ハ朝夕
とくせぬものといふ六月の冷天くく此根子の京ハ煙
酒の火の火火火のちりなりおとくくいたく燃る
七鏝するものいふく火をこの火をくく日照りてく
夏の空をよめおのつり根子野の焼くありまじく
うちけするまじくあまのすく火の巡るまじく焼く
作て足を防ぐといふく最上川の埋ホの御殿集
三ヶ野瀬の上にあまの此埋ホの燃るありまじく
いふく土の黒くくあまの虫は黒し黒く越野く
ろく蜻蛉のいふく小く多し此蜻蛉くらきんこと野の

つゝつゝといつてやうくすし大友吉為の云一とせり秋
くくくくといふ鳴ぬをよむ鵲ありいつこそと見る
は此鵲白臍シラフをよむを白とて雲のどくその臍の目影
よきめきて黄金を光りあり是を捕ふとさあぐあみ
まゝわたりつゝあがげせりつゝもいりや根
子野とて思ひものゝもあふべしり

○野中のみ 根田谷地村

○根田村コムダは小阿仁に在りたゞ國をへ根田ネダとて此根田谷
地チは本田村の内なりふふ安永應の年間割れ入る
別村と成りぬ此ありい平鹿川の餘水をもて多賀谷
氏の勲功を天和三癸年より正徳三癸年三十三三年
内は百三十八石餘りの水田イナリ起て民家六十軒餘戸の村とて
成就しとて水不足を百石餘の田トコロに潰りまゝなりぬといふ
東に塚掘西に田村南に八柏北に百万石の邑とて此根田村とて
田村の如く根子掘り焚くといふ田村と同村なりし事い
ちぢり郡邑記に根田谷地新田村と見え中野村家欠
十五軒元禄四年羽立下村同十三軒始同上と見え
えたり本郷根田谷地新田村家欠七十戸傳藏村六

戸○鍛冶村四戸○中野村二戸

○惣家員二十九戸○人数百二十八人内六十九人男
同五十九人女○馬足

○正一位稻荷大明神社此神社の創め延

室の末天和の始めあり村の南の野中鎮座あり

神社と今村中よりつゝ社地東北西二十四間
南北十九間廣し奈

主大工吉之介祭日八月九日古社地とて野中二百間四

面より今野中より此みやりのありとて此一巻を野

中の社とていふ

○浦の北より八柏村

益子氏の高年人の志人なり此一巻の始り

倭名抄に太字女者毛波良之古語也今呼ラ充女ヲ為

太字女故次ニ於ニ負耳ヲと見えたり益子下野國の地名

に在りそと氏とせしむ

八柏村 里長 喜右衛門 六
あしよりいし始に在るむり津輕の平内を陰夜の
鶏初声鳴る起て此年辰根草萱刈ふと思ふ
己れききとあふい行て雪の上におのの標をさし歸る
是と家頭打つもまた八柏うつもりて八柏氏を郷
名するむりいふふみ子小野寺と藤太郎光道八柏
大和守軍奉行とて多勢を分て向つてらと見え
ふ秋田古戦記横手合戦のころに天文二十一年六月
に此時小野寺家臣八柏大和守討死し主を助く
光道の舍弟八柏孫七十六歳と諸人の耳目をおど
り傳へしとて湯原の城に引退くをど見えたり

おゝ、水芝、軍記二十六卷八柏大和守道為被討くゝ
より、搦れ最上義光今大岡、政道不正弊、二棄し、急
本國に下り山北を攻取んと思ひ、れゝゝ、友より小野寺義道
が家臣八柏大和守とて者智謀深、大岡の勇士と
彼、有る限、我度攻め、勝利を得、難し、如何
もして八柏を失ひ、己の身、いづゝ、京都に存
まゝ、駐登典膳と最上より下し、豊前守を委細と書
札より下知、あゝ、仍て豊前守一通の状を認め、名をバ
八柏大和守と書、態と引遠て義道の舎弟吉田孫
市が本、いづゝ遣り、孫市を見へ、あゝ、や
今何の故、豊前守八柏が元、状を遣り、てゝ、使文
育り、て此状我元、持来、てゝ、天の與、いづゝ、ふ、を

既子被て見んとせ、我一人、如何有、と思ひ、即舎
兄義道の前より、いづゝ、と語り、る、義道是を披
き見れば、其状、曰、然、以、飛、擲、合、破、た、信、然、を、去、り、
市、内、通、て、信、を、兼、り、上、と、趣、同、に、京、都、迄、以、使、を、微、細
義、先、注、進、を、如、く、い、ひ、為、る、迄、を、以、度、貴、破、山、形、ノ
市、信、方、に、可、被、系、忠、節、に、條、市、大、意、不、之、之、思、召、候
就、其、而、義、先、自、筆、謹、又、一、通、波、下、を、候、則、市、取、り、通
首、尾、仕、候、段、市、悦、喜、り、思、召、候、所、来、る、率、人、數、平
庶、表、相、働、候、并、同、不、違、兼、約、貴、役、兼、切、相、圖、狼、煙
尤、に、存、候、所、市、軍、意、不、可、相、違、候、思、惟、謹、言、九、月、朔、日
八、柏、大、和、守、破、楢、岡、豊、前、守、満、成、義、道、大、發、其、狀、
大、和、守、逆、心、を、企、て、敵、に、内、通、し、る、を、急、に、首、を、刎、り、先

此返るをせんと八柏がを驗し返るを書し其狀
曰「市書面拜見仕候」注進之赴京都近市披露之所義
光公裏功忠戰於有之者平鹿郡何地成共三千五百
貫可與行之旨若又於市平意無之者雄勝小野庄而
堪忍分千貫之中證文下賜難有項戴仕候於市働
者必定可為勝利候俟私追而以此使者内通可申達
條不左様内卒尔市働之儀延引可有候恐惶謹言
九月三日 楢岡殿 八柏大和守道為 如此書を認夜
の者もを返し其後我道に使八柏を召さるる八柏
懸るより有るも多し不知取柄不取敢横手をさし
来る大手の口に入らむとて楢内決路思召甚そ所
つと出市追が逆心既に露顯し急き首を刎よめ

作る家り是子待受よりと云い不果八柏が首水れたま
らに打落す八柏が即等心得たりと討物のさやあつ
切に掛る元来隠し置き武士前後より取就て一人
不泄討取し其間八柏が二人有りしを飯詰に作謀
りし討せたり兄十六歳弟十三歳を成りし不候
よりしと云い此八柏が先祖より小野寺の臣
として忠功を勵まり其上智謀謀り者も彼が有
し程に敵山北へ攻入事不能然るを今度最上の謀計
依て無科大和守を殺さるるこそ小野寺の運の成
りしと云い此八柏と小野寺累代の臣より関東より義
祖八國の公卿供より藤合が末葉に八柏を領すれは
假名より文氏家より兵より故に最上の為るに腹心

の煩きん今度謀を以て討てぬと見えたりその政敵
此邑に蹟あり此八柏村の東に塚塙櫻森南に七
日市北に田村あり郡邑記云〇八柏村家負三十六
軒〇金蓋村同八軒寛文六年に始り文藏村同五軒
寛文七年文藏より者開くと見ゆ〇本居今六十八戸
〇金蓋今七戸文藏同今三戸〇金蓋の金蓋子孫四
郎の母は九十三歳なりて死に去りし年尚齒會の
御祝言とて此女はおはむらづけるものありつゝし
〇奥山甚内が家と上祖やんがしりる家と武具と
もひめらたゝのけと無きとそが別家と〇奥山半
左衛門といふ家あり此やういふもの〇八柏大和守道
為古銀の跡あり

〇聖徳太子木像あり水戸より守りたりあり木像
ありてゐるなり〇尊形に斎主 吉作

〇大日如来堂

斎主 佐藤清三郎

〇神明宮

祭日四月朔日

〇八幡田宮

祭日八月十五日

此西社當村大善院守護社に

〇大善院累世金子未由

〇當家の金子守郎家忠之苗裔と云ふ金子十
郎家忠は往昔源平合戦之時義経公の手子に属し西
國へ向ひ給ひ勇まき其後北條の時世大に衰微して賀茂
の正嫡今茂木の家を頼み居たりあり
佐竹義宜公當國の時遷邦の時茂木の家御供
み具せり幼少より常陸の國に残りしが成長の

後、公の御跡を慕ひ當國より来り平鹿郡横手
に居住せり此時茂木公七日市、郷に居城し給ふものと
き茂木筑後公の招き依て吾々祖八柏、郷に移り来て
創り修驗寺と成り石照山寶藏寺文殊坊といふ
當寺の系譜に、其委曲をいひつゝ其世八柏へ移
り茂木公より拝領の物とて猫足、茶釜、茶鍋、茶臺
今に所持せり又友次、九寸五分上祖の重寶なり
○權大僧都文殊坊清天法印常例より未明曆三
年丁酉正月二十九日遷化○二世大善院秋達、延宝九
年辛酉九月十一日化○三世自性院宥法、享保十六年辛
亥九月五日化○四世宥脱号大善院寛延二年己巳四
月二十六日化○五世大善院新詠、文化三年丙寅七月

二十七日化○六世大善院快光、同年九月十七日化○七
世現住大善院自性坊

○惣家負七十戸 ○人数三百六十人
馬數 三十疋

聖徳太子の御影
 常陸国より上祖のりて
 此出羽ノ国に來りて
 木ハ桂と云作り
 其人の作と云事
 天正のころより此八柏村の喜作ノ家子齋
 二十七年の六月に
 此出羽ノ国に來りて

○聖徳太子、木像

此出羽ノ国に來りて
 木ハ桂と云作り
 其人の作と云事
 天正のころより此八柏村の喜作ノ家子齋

甲

甲乙此画二尺二寸許



甲八柏大和守道為が
 居館の蹟方七八十間
 あつた今ハ三十間ニ
 十間とあり奥山甚助
 分分流同苗羊左衛門家
 栖家りそと乙八柏村
 存在ていとも大なる屋
 あり



○八柏池

此池甲八七日市子
 いと近くしりあみ
 な見えふぬふ七日
 市の源とおふふれ
 と乙八柏道の千町子
 落ぬ



八幡宮御正躰

〆、とせあまりむらゝも、むら田の銀のとき、
 二尺あまりある石牌^{エリシ}ひとつ掘り出さず、**甲**弥
 陀の種子とおぼ^{ホロジ}も梵字をあらゝす、某月
 十五日ともある八幡宮と奈きあらゝす、
し應和とおぼ^{ホロジ}もといの号^ナ見えたる應和
 と六十二代村上天皇の市代と
 此年文政八乙酉年より八百
 六十餘年のものなり



石河系西谷村とふ家河郡邑記の西谷地と今家二戸あり○桑木村と今十七戸○田尻今家無く字処に残れりのことなり

○白鬚大明神社祭日四月十九日 斎主 柴田武衛門此神社と今十二所ある茂木氏常陸国より此國うつされし市神と云ふなり 白鬚の市神と云ふ海國に鎮座し猿田彦、余とも云ふあり神社考詳説云、白鬚大明神近江國地神也此神常見湖水と成葺原と見えたり此市神の事を江守武鑑と云ふ書にありしと云ふありハ茂木氏の柵の内鎮座神今ハ七日市一村の鎮座なり市木氏居鎮ありし世と七日市とて賑ひいふと云ふことにて

七日市の名ハ云々

○稻荷大明神社 斎主 佐藤清右衛門ハ内神

○茂木筑後殿の碑と云ふおのづから生る無縫塔のごとく高三尺四寸の石に法名その名ありて社の後なる

また

○馬道の跡と云ふ馬場尻田畠に在り 辰館の跡を市鎮と云ふみふ此末の園のと云ふと委曲なるに

○七日市村

○総家負十七戸 ○人数百二十八人 ○馬六十六匹

甲 白鬚神社
 乙 若らひの旧
 地の跡 茂木
 氏居館の蹟
 大屋敷とふ
 丁 茂木治郎の
 碑あり

(東)



茂木氏石牌 エリシ 此碑より西北の方より
馬場の跡あり今馬場後とて田畠の字
に残り

寛永十一甲戌年

○ 法恩院殿月山成心大居士神祇

三月十四日

茂木氏十八代 治良公塔

○ 茂木氏より茂木櫻林村 里長

庄左衛門
五郎左衛門

○ 東二七日市田村西の阿氣野岡南の高口北の田村阿氣三
村にあり楊の多かりきふや楊林楊山さくら田楊の
あど世より多し 郡迄記 家々十一軒 ○ 一堰村十八軒 柏

木村三軒 ○ 四屋村四軒 ○ 狐塚村二軒 ○ 西谷地村二軒と云

り ○ 一岡 今十八軒 ○ 柏木 今三軒 ○ 狐塚 今三軒 ○ 櫻林 今十一軒

○ 四屋 今三軒

○ 正一位稲荷大明神、社向村より南に在り神社之古木の
杉十本群生り祭日六月九日 斎主 保長

○ 一野堰神明宮 祭日四月二十日一岡、甚だ内門の神祇
二十日の春夜より平鹿雄勝の人群集しきまゐるまねあ
り賑々 ○ 狐林と云古塚あり狐穴ありき

○ 杉北志の塚堀村

里長

助八

○ 此村東に下八丁西に根田谷村南に清水所北に下境村と
あるを塚堀とて我々古大寺古墳の上有燈蓋松と
て其枝の三つ分れてさううら矢柄の燈蓋櫻といひし
けり。○ 明和天明のあたりから枯て今に其古墳のこ
ごありけり。その邊にゆるゆる人の柩家といふと見え
むろゝハ堀の形代わりのしや。この塚にうさぎの屍や
堀にうさぎの屍とて人に見えたり。さういふれば此物誅
のあつても塚堀の名を知れり。郡邑記に塚堀村家
負八軒。○ 羊谷地村六軒。○ 金蓋村四軒と見えたり。今此金
蓋貴て村あり。○ 羊谷地村本般若寺とて羊谷地と
轉語するもの。そを字うつりたるといふ。○ 古大

杉群生中ムラダツの薬師佛マセ座りありその前の寒泉あり延享寛延のころなり
通霄院殿義真公此妙美泉の本やうい好泉シミツ掬シ給ひて地とて柴垣をめぐりて人恐カレコる跡あり
○薬師佛チカミ社未チカミ社神明宮杉群生の中座り水ミヅ
神真寒泉の中嶼シマとてやうなる神祠ミコトウラの内座り祭マツル
日三柱ミヒサタテ共トモ四月八月八日とせよとあり此社地五十
間四方杉樹其数四百餘ホノありあたふあふ付ツケ此薬
師如來とあり常陸国より遷ウツリしてありしと
いふ是を考カミふと式の市神イマチノカミといふちの國クニを二十八座ニヤハサに
せし中ナカの鹿島郡二座の内ウチの大洗磯前オホアライ薬師ヤクシ
菩薩ボサツ明神ミカミ社とあり市神イマチノカミあり那賀郡七

座の内ウチの酒烈磯前サカウラ薬師ヤクシ堂オトケ神カミ社ありとあり
市神イマチノカミ達タチはおもひせせはさる磯前イソノ薬師ヤクシ堂オトケとありしとあり
りし事コトものゆゑむねおくりし事コトもあらう

杉尾社此市神イマチノカミ山城国一百二十二座内葛野郡二十
座の市神イマチノカミとて松尾神社マツオノカミ並ナリ名神ナカミ大月次オホツキまたありとあり
尾オノ大山オホヤマ昨キノ年コト市神イマチノカミ島姫シマヒメ年月トキ讀ヨミ神カミ社ヤと見えありとあり
考カウ詳キョウ節セツとて松尾賀賀マツオノカミ玉依姫タヨヒメ所取ソト之ノ丹塗ニヌヅリ矢化ヤカハ為ナリ神カミ社
尾オノ大明神オホミカミ是也コレヲ大寶元オホタカラ年トシ秦都ハタツ理始ハジメ立タテ松尾新殿マツオノニシン曰イハレ
大山オホヤマ咋ノ神カミ是也コレヲ比叡ヒエ日吉ヒコ之ノ同トウ躰タマ也ナリ見えあり祭日マツルヒ九月九日
○稻荷明神イナリミカミ社ヤ祭日マツルヒ松尾マツオノ社ヤあり

○家員二十一戸 ○人数八十九人 ○馬負四足

○般若寺ハ本ト横手ニ在リシ寺ニモウケル其ノ寺ハ三嶽
山下居社近ク三十六坊アリシ其ノ一ヶ寺アリ一ヶ坊ハ僧塚
堀ニ開居セシメ此般若寺ノ在リト云々此藥師寺ノ内ニ出
羽六部寺巡リ納經ハ觀世音ヨサセリ圓仁大師ノ作ナリト
いへり

秋田順禮道中記三番横手前郷三井寺別當黃
檗宗縁起寺ハ奉納シ觀音定朝ノ作加賀美次郎
遠光般若寺防戰ノ時大鳥井山ノ川ハ入リ其後
慈覺大師ノ作ナリ詠歌

春ニ花鳥ハ林ノ鐘ノ音ツねをくつハ絶ル般若寺
と見えたりかしねハ今ニ此塚堀村ノ般若寺ハ納經セ
り

塚堀邑枝郷
甲般若寺村
乙出水般若寺
丙天台宗ナリ今ハ
横手ノ觀音寺ノ末庵
ありて真言宗派ナリ西人ナリ
真田道性宅此一村杉ノ真清
水ノ流ヲ汲テ飲食シト云々
丁寒泉ハ南ヲ源トシ北ニ流
テ田ノ面ニテ流ナリ戊高橋平
チ郎ノトコ小庵ニあり此家
ナリ名品ノ茶ヲ製シ出ス其
茶島トシテカノ比内ノ茶林合
ノ岩水氏ノ茶畑ノことナリ





般若寺の甲葉師佛といふ所の御佛とてせしめりてさうやうなる
 圓仁大師の作の尊像と御腹の内をみて作りたりといふも乙神明
 宮といふく通賢院殿義真
 公此ふまやまの寒泉をすて
 余いゝて柴垣をいめく
 りゝゝと

杉、真清水、般若寺の
薬師如来ノ社地ニ在リ九南北
の目、十間、西、東、西、五、間
斗、水、と、よ、く、あ、ま、の、醒、
井、練、貫、た、ま、の、し、き、
の、六、郡、の、内、村、の、宮、外、
は、ま、た、か、く、古、く、杉、群、
の、あ、ま、の、や、ま、あ、る、
甲、水、神、の、み、や、り、
あ、ま、の、や、ま、り、小、寒、
泉、涌、出、る、
乙、別、村、は、往、復、の、道、
あり、
丙、般若寺
村、は、往、来
の、筋、あり、



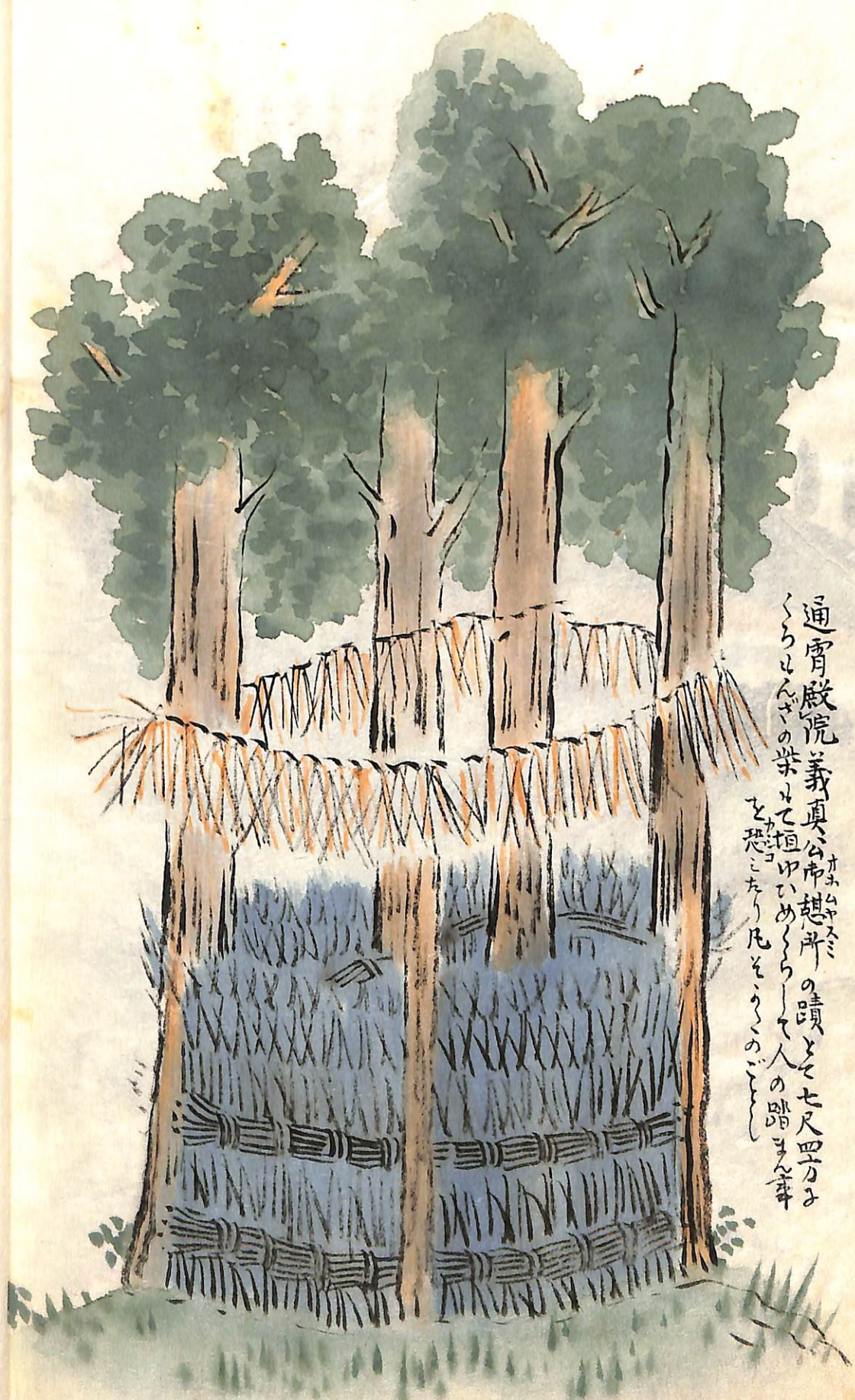
東

小野寺興廃記
は、原、大、膳、岩、崎、の、城、
衆、取、り、事、と、ふ、く、ち、
は、岩、崎、の、肝、要、の、虎、口、
あ、ま、の、加、勢、を、
遣、さ、ん、と、し、
は、も、旗、本、の、
人、数、不、ま、あ、ま、
一、族、の、吉、田、廻、
口、般若寺を遣、
す、云、々、と、見、え、ち、
般若寺、は、小、野、家、の、
住、な、い、ま、
あ、ま、の、



西

通霄殿院義真公市惣所の蹟とて七尺四寸
 くらんずの築て垣ひめくらして人の踏まふ
 ことを恐たり凡そこのこと



○志之屋清水町村里長 藤七

駿河国盧^{イホ}奈^ナ郡清水町信濃国更級郡
 清水ノ里といふ所あり志之屋といふ所あり清水の駅^チノ級^キ
 所ありそを清水村といふなり清水の駅ノ級^チ
 野ノ国に在る所といふなり千^チ所^マ八^ヤ千^チ所^マ元^{モト}田^{モト}所とい
 ふ里に在る所清水町と妙美井^{ミキミヅ}の所を以てとい
 創^{ツクリ}し郷^{ムラ}の所といふなり郡邑記明暦年中最上浪
 人出雲といふ所あり注進所地といふ所あり信子
 万治寛文のころより下鍋倉村の久左衛門といふ所注
 進所をたてしといふなり注進所の同奈の所より稲荷の
 市神子ねきといふ所あり深いつちありといふ所をたてし
 といふ所を山田のいたといふ所をたてし初雲といふ所

狐の志、取り子鳴て行ぬあやうきとわれい明日旦此狐
のふしは是跡をたゞなまふとて分行くば犬子清水
とて狗子の音にてあちと通出る手と叩きいよわきつ
る清水ありはと稲荷のおほいづけやとやがて堰を
作りて水田ぞ新墾するさうのしをめて此村を

○稲荷大明神、社あり 奉祀日九日八日

○痘瘡神社

○二城 古三戸八戸 中村古六軒八戸二十戸

○雀田古九軒 此すめの田今ハルより下り開きとい
て家今ハ三戸あり

いふ明暦のとし最上藩人杉野目出雲といふ士
と創茅を其後亂今といひんぐちから杉野目市衛

門とてなほある

○多寶院歴世

○上祖寶光院快山宝永二年乙酉十月二十六日遷化
○二世寶泉坊快元享保十八年癸丑六月三日化○三世
多寶院快永明和七年庚寅八月十六日化○四世寶泉
坊快宥天明二年壬寅三月十二日化○五世現住多光
山本道寺壽善坊快傳く

○水田字

○坊田○山伏開○松下○松前あといふ田有りあり
の塚松やあといふさういふ松とありいふハ今
カ松と孫松といふるを圖にかいてたのひふふあり

○家員三十戸○人数百八十九人○馬數十三疋

甲清水所今清水
 新田邑とふ
 乙稲荷社杉群りそ
 櫻りまじりたり
 丙田中の松ゆありし
 あまごつをりりたふ





○野水のたむら下八町村 里長 利介

○土手八丁 大津八丁をいって八丁の石が多きあり
八丁碑と石を得る氏あり此村東上八丁
西下境塚堀南赤川北より下境村に郡邑記
総名「唱」となり○谷地小屋村家負一軒今一戸
あり 上小屋古二軒今二戸あり 中村今家あり古
家四戸あり 先年八丁村より附紙上小屋村
中村明永村三ヶ村合下八丁村と唱て田同書見
○明永村古五軒今十五戸 吉田小屋村古一軒今一
戸 松林村古四軒今七戸 阿弥堂屋敷と名除地一
軒あり 寺田村一軒今家あり 下堰村堰端の家
一軒有と名今一戸あり 赤平村此村の近き赤

平と云田字の右を以て村をとり家古一軒今も一戸あり
○中島村家三軒今も五戸あり○田中村家六軒今も
家あり○境田村家二軒今も四戸○小三條村家三軒今も四
戸○堀合村家一軒今も家あり○日照田といふあり○二
戸ともいひて今八戸の村なり此村ハ享保日記郡邑ハ見
えん

○八幡宮明永村、鎮座り祭日八月十五日

○神明宮同明永邑、奉り祭日四月二十一日

○稻荷明神社あり中村の有りし跡に座り九月
十九日甚左衛門祭りす

○阿彌陀佛社松林といふ村に在り此佛像ハ運慶が
作りといふあり松林山善明寺とて天台宗の大寺

あり今ハいふやうなる庵に安置まつるなり

十一月十五日ハ市年越し祭りとて人々通夜せり

○白山姫社田の中なる大福塚といふその塚の近き邊
に此菊理比咩神座り祭日八月十九日

文政五年のちりちいハ憑証あり○稻荷市神ハ

そりといふ市神のいしといふなり○八幡宮ハ七百餘年

を歴つといふ市神のいしといふなり○小三條村ハ久助と
いふあり下八丁創めの家といふ

○境正寺修驗累世

○並門山境正寺喜樂院の開祖ハ大福院永懷法
印に近き寛政三年回祿して古記録みまうせしそ
のやうといふ委曲なるにまうハ大福塚の邊に在り

延宝八年庚申、十二月十一日遷化即之、子葉、
しをて大福塚の多々あり○二世福泉坊了菊貞
享五年戊辰九月十四日化○三世普門院祐山享保二
十年乙卯九月化○四世自福院覺山宝暦二年壬
申四月十二日化○五世福泉坊覺元宝暦十一年
月日化○六世自福院峰雲明和二年壬寅七月十六
日化此自福院の世安永年中に境正寺といふ寺号
を始りぬ○七世現住普門山境正寺喜樂院僧法道

○河内赤川村 里長 赤川猪岡 雨村善常 三之助
東ハ三本柳 西ハ塚堀南ハ猪岡北ハ下八丁ノ村ニ此村
といふ小村○赤川村古ト十八軒今亦十八戸あり
○下村下赤川といふ古ト五軒ありしを今ハ家あり
○神明宮村、東に座り双石日三二月二十日斎主保長
○稻荷明神社村の北に在り

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○*めがし* 猪岡村 里長 赤川猪岡 西村憲常 三之介

○猪野岡 井野岡とも見えたり 古三十二軒今

三十一戸内一戸山伏 中猪岡古十三戸今五戸 岩野

沢六軒今八戸 水越古一軒今一戸 高口古軒

今三戸 樋原村五戸 天明より寛政の頃新墾せし村

あり 田茂木原村二戸 享和年中開墾せし地あり

○八幡宮 三間 向東祭日八月十五日 別當萬寶院

○山神社 山神、木林とて村の東方、松山に座り 斎王

勅助祭日六月十二日、人々此松山に群れ詣つたり

○神明宮 おきじ 松山の中、座り祭日四月朔日一村人

斎奉ふ

○稻荷神明中猪岡 も座り 祭日四月九日

新主の御時

今野村の歌

名も無き御時の中
御時の中御時の中
御時の中御時の中
御時の中御時の中

